

全国協議会 ニュース

2018年10月1日発行 第316号

発行所：特定非営利活動法人
全国骨髓バンク推進連絡協議会
〒101-0031 東京都千代田区東神田1-3-4KT ビル3階
TEL：03-5823-6360 FAX：03-5823-6365
発行責任者：田中重勝 題字：仲田順和（会長）
http://www.marow.or.jp E-Mail:office@marow.or.jp

アジア・太平洋地域 新興国の医療従事者育成 デルタ航空のチャリティーマイレージを提供

私ども全国協議会は、デルタ航空の「スカイウィッシュ・チャリティー・プログラム」を介して、デルタ航空利用客様からのマイレージを寄付いただき所有しています。このマイルを活用し、これまで世界造血細胞移植ネットワーク (WBMT) の学術集会などへ参加する新興国の医療研究者への渡航費用を提供援助して来ました。

アジア・太平洋地域の次世代の造血細胞移植を担う医療従事者を育成するためには、移植医療の先進施設での研修や関係学会への参加が必要です。しかし日本等への渡航には、若手医療関係者にとっては高額な交通費用が障壁となっています。そこで当全国協議会は、アジア・太平洋造血細胞移植グループ (APBMT / 岡本真一郎理事長) と連携して、チャリティーマイルを提供援助することになりました。このプログラムの進展により、アジア・太平洋地域の医療向上と各国間の交流促進が進み、より多くの患者さんの命が救われますようお願いしています。

【対象者】

- ・造血細胞移植に関連する医療従事者 (医師、看護師など) であること
- ・申請時点で、原則として40歳以下であること。
- ・日本造血細胞移植学会が認定する移植施設での研修、アジア・太平洋地域で開催される造血細胞移植に関連する関係学会への参加、骨髓バンク・さい帯血バンクの見学研修、などを受けることが確定していること (申請時)。
- ・研修期間は原則として、概ね一週間以上であること。
- ・本事業の審査会で、支援が適確と判断された方。

【航空券提供概要】

- ・デルタ航空および提携航空会社 (ス

カイチーム加盟航空会社) が就航している海外地から日本 (または開港地) へ渡航するためのエコノミークラス往復航空券。

日本の若手医療従事者の海外学術集会参加へのマイレージ提供

日本の40歳以下の若手医療従事者 (医師、看護師、臨床検査技師、HCTC、MSW など) の方々が、海外で開催される学術集会での口演・ポスター発表への参加に対し、上記チャリティーマイル提供を行っています。

最近、応募が少なくなっています。より多くの方々にご利用いただけますようお願いいたします。詳しくは、全国協議会事務局にお問い合わせください。

東京の初雪は今年も代々木！

11月10日 (土) ~ 11日 (日) 東京の代々木公園で「東京雪祭 2018・スノーバンク」が開催されます。献血・骨髓バンクの大切さを多くの若者に楽しみながら知ってもらうイベントで、雪広場でのスノーボード競技や様々なアクティビティが用意されています。雪フェスで献血・骨髓ドナー登録を！

雪主募集中！



白血病患者支援募金

募金箱の設置場所募集中！
ご協力をお願いします。



店頭や事務所などに募金箱を設置して、私たちの白血病患者支援活動を支援してください。集まった募金は、年に2回お届けする郵便振替用紙にて振り込みをお願いしています。また、募金額については、協議会ニュースに、企業・団体・店舗名などと一緒に掲載させていただきます。(匿名をご希望の場合は、匿名にて掲載いたします)。どうか皆さまの温かいご支援・ご協力をお願いいたします。

- 常設型募金箱：組み立て式ハードプラスチック製
- 簡易式募金箱：折りたたみ式プラスチック製

骨髓バンクの最新情報をお知らせする

骨髓バンク NOW

(MONTHLY JMDP (9月14日発行) より抜粋)

■日本骨髓バンクの現状 (2018年8月末現在)

	7月	8月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,983	3,326	488,871	745,682
患者登録者数	263	237	3,969	54,554
移植例数	102	126	—	22,315

■8月の区別ドナー登録者数

献血ルーム / 1,178人、献血併行型集団登録会 / 2,083人、集団登録会 / 14人、その他 / 51人

■8月の年齢別ドナー登録者数 (現在数)

10代 4,569人 / 20代 72,909人 / 30代 136,712人
40代 209,854人 / 50代 64,827人

■8月の20歳未満の登録者 161人

■8月末までの末梢血幹細胞移植 (PBSCT) 累計数：540件

注) 数値は速報値のため訂正されることがあります。

日本骨髄バンク全国大会 2018 in 滋賀

9月15日(土)「日本骨髄バンク全国大会 2018 in 滋賀」が滋賀県大津市和邇文化センターで開催されました。内容はとても感動的でした。



第1部の式典では、主催者挨拶、来賓祝辞、感謝状贈呈、そして骨髄バンク事業報告がありました。

第2部では、三つの講演がありました。木藤克之先生の医療講演「造血幹細胞移植 生きたいと願う人がいる 助けたいと思う人がいる」はとても分かりやすいスライドと丁寧な説明で、良く理解できました。

次に滋賀県の骨髄バンク推進活動について、滋賀の会の片岡智一さんから説明がありました。地元の頑張りでもドナー登録者がここ3年間で3.6倍になり、昨年度は883人登録したとのことでした。一方、登録説明員が少なく登録会に派遣できないことが課題でしたが、滋賀県には他県にない社会貢献活動に関心がある高齢者が学ぶ「滋賀県レイカディア大学」があり、ここで説明員養成講座を開き説明員を増やしてきたとの報告は、大変ユニークな活動で素晴らしいことだと思いました。また、若い登録者を増や

すために大学やショッピングセンターで登録会を開催し、回数も倍以上実施しているとのことでした。

元患者の石井希さんの移植体験談、骨髄バンクユースアンバサダー(※)第一号としての活動報告は、特に心に残りました。「21歳の大学3年生のとき急性骨髄性白血病を発症し休学したこと。22歳のときに30歳代の女性から骨髄提供を受け、そして元気になって復学したこと。自らの移植体験とともに卒業論文を作成したこと。ドナーの方のお陰で今を生きていること。多くの若い世代の方々に骨髄バンクを知ってもらえるよう、アンバサダーとして出来ることをして行きたいこと。」などをしっかり話されていました。

第3部の文化講演では、骨髄バンクのドナー登録を重要なテーマに取り上げた演劇「首のないカマキリ」がとても良かったです。大切な“命”をつなぐために、自分は何ができるのか。普段あまり意識することがない、このような重い問いかけを、どこにでもありそうな

家族の日常に組み込んで、リアルな群像劇として描き出しており、インパクトがありました。大変な熱演でした。最後のプログラム、酒井美生穂さんのピアノ演奏は清々しく心が洗われました。

閉幕前に舞台上に登場した骨髄バンクを支援する第501軍団(スター・ウォーズのダース・ベイダーの仮装軍団)にも目を引かれました。大会後のロビーでの写真撮影会も良い企画でした。

今までの全国大会とは一味違った今回のプログラムは、内容も色々の視点から構成されており、とても新鮮で感動ものでした。

※骨髄バンクユースアンバサダーとは、骨髄バンクのサポーターとして継続的に関わっていただく10代~20代のボランティア。主な活動内容は、若年層に向けた広報企画提案、ポスター・チラシ等の広報資材の企画作成や公式Twitterのツイート(案)作成、ドナー登録会での説明員活動、移植患者・提供者へのインタビュー等です。

(千葉の会 梅田正造)



片岡智一さん

石井希さん



平成31年度厚生労働省概算要求 ～国、造血幹細胞移植医療対策を拡充～

8月29日(水)厚生労働省は、「患者の病気の種類や症状に応じて、3種類の移植術(骨髄移植・末梢血幹細胞移植・臍帯血移植)から適切な移植術を選択し、実施できる医療体制の整備や治療成績の向上を図るとともに、造血幹細胞移植に必要な基盤(バンク)の安定的な運営を支援する。」として、移植医療対策の着実な拡充を目指し、本年度予算より1億5千万円増額の総額24億5千万円の概算要求を行いました。

H30年度予算額 H31年度要求額

関連予算総額 23億円 ⇒ 24.5億円

- ・骨髄バンク運営費 4億61百万円 ⇒ 4億70百万円
- ・骨髄バンクへの補助金。安定的な運営のための支援。
- ・骨髄データバンク登録費 6億15百万円 ⇒ 4億95百万円

日本赤十字社への補助金。骨髄等ドナーのHLA(白血球の型)の検査及びデータ登録・検索等に要する経費。システム運営費1億2千万円は、システム一元化経費に移行。

- ・支援機関業務経費 28百万円 ⇒ 28百万円
- ・日本赤十字社への補助金。支援機関としての運営経費を計上。
- ・システム一元化経費 2億86百万円 ⇒ 5億3百万円
- ・5カ年計画の最終年のため必要経費を計上。
- ・さい帯血バンク運営費 5億85百万円 ⇒ 6億12百万円
- ・臍帯血供給事業者(臍帯血バンク)の安定的な運営のための支援。
- ・拠点病院整備経費 2億55百万円 ⇒ 2億56百万円
- ・全国9カ所の造血幹細胞移植拠点病院への運営補助金。
- ・患者・ドナー情報登録 65百万円 ⇒ 76百万円
- ・日本造血細胞移データセンターの運営補助金。

骨髄バンクチャリティ麻雀大会 2018 in 東京



8月26日(日)、東京港区新橋で恒例のチャリティ麻雀大会が開催されました。東京では今回で15回を数えます。大谷貴子さんとノブ・ハヤシさんの特別講演、チャリティオークションも行われました。当日は、プロ雀士23名と関係者を含め約100人の参加者があり大変盛況でした。主催の「ノーレート麻雀ネットワークニューロン」をはじめ、17社からの協賛、13の個人・会社からのオークション寄贈など、今年も沢山の皆さまのあたたかな応援がありました。当日Abema TIMESの取材がありヤフーニュースにも掲載されました。募金総額は352,802円となり、全額を全国協議会及びとくしまの会に寄付いたしました。

さて今年は、私の地元徳島にも続けて台風が上陸するなど大雨や地震、酷暑など日本全国で自然災害に見舞われ、多くの尊い命が亡くなりました。心よりお悔やみ申し上げます。自然災害に対してある程度の予防はできて

も、時に我々人間は無力を感じさせられます。突然発症する白血病のような病気も、当人からすればある意味、災害のように防ぐ



ルージャー山口 (山口明大)

基金給付を受けた方からのメッセージ

佐藤きち子記念
造血細胞移植患者支援基金

昨年の12月に病気の再発が確認され、今年の1月より再入院することになりました。今年の3月頃より職場復帰を予定した矢先でしたので、私を含め家族もショックを受けました。前回の入院でも長期入院。退院後も外来受診等で多額の医療費・交通費がかかり家計を圧迫しました。今回も同様の出費が考えられ困っていた時にケースワーカーさんより支援基金の話がうかがい、今回助成していただき大変感謝しております。貴重な助成金をありがたく使用させていただきます。

(関西地方在住)

白血病フリーダイヤル 広がる。支えるちから。

白血病フリーダイヤルには、毎年7月にお電話をくださる人がいます。

17年前に骨髄異形成症候群から急性骨髄性白血病を発症し、骨髄バンクのドナーから骨髄移植を受けた女性です。

ドナーから新たな命をいただいた7月に、です。移植の前後に白血病フリーダイヤルに相談をされ、「その都度、勇気づけられた」そうです。

その後、患者さんや患者さんを支える家族をサポートするため患者会を立ち上げられ、患者会の存在をより知ってもらう方法を相談されることもあり

今年の7月にも「健康で元気です！」

とお電話をくださいました。はつらつとした声で心身ともに健やかで充実したご様子が感じられました。病を乗り越え、「子どもの成長も見られ、ドナーの方と白血病フリーダイヤルに感謝しています。」とおっしゃってくださいました。

現在は、受診している病院の患者さんたちに白血病フリーダイヤルを周知してくださっているそうです。

これからも患者さんやご家族のために一緒に繋がって参りましょう！とお話ししました。

たとえ遠く離れていても患者さんや患者さんの家族を想い、自分のできることに取り組んでいる仲間が日本全国にいて繋がっているんだな、と温かい気持ちになりました。

(ボランティア相談員)



神奈川

県との共催イベントを開催

9月16日(日)かながわ県民センターにて、『今、ドナーに希望を求めて～あなたの勇気が命を救う～』をテーマに医療講演・シンポジウムが、約200名の参加者を得て開催しました。

当会会長・村上忠雄は、主催者の挨拶で「まずは骨髄バンクを知って頂き、若い力とみなさまの勇気が、移植を必要とする患者さんの未来への希望につながる新たな第一歩となるように」と、熱いメッセージを送りました。

共催の神奈川県健康医療局保健医療部がん・疾病対策課 濱卓至課長は、特に若い世代のドナー登録者の必要性を訴えかけ、県での取り組みを紹介していただきました。

第一部の医療講演では、東海大学医学部の矢部普正教授が、骨髄移植の最新情報を講演され、ドナー登録者の高齢化が問題となっており、若年ドナーのリクルートが喫緊の課題だと指摘されました。



木下ほうかさん 池谷有紗さん

第二部のシンポジウムでは、「移植って何？ドナーって何？」をテーマにパネルディスカッションが行われました。

骨髄提供経験のある俳優・木下ほうかさんは、献血ルームでの啓発ポスターがきっかけとなり「まずは登録だけしてみよう」と2004年に登録。その5年後の2009年に適合通知が来た時には迷いもあったが、自分の体の一部が必要としている誰かの役に立てるなら…と提供を決意。自分の細胞が誰かの身体で生きている嬉しさを感じたと話されました。

元患者さんで移植経験者の池谷有紗さんは「逝きそうになっていた私の手を、顔も知らないドナーさんが掴んで、地上に戻してくれたというイメージが、今の自分を支えている」とお話しされました。壇上で朗読されたドナーさんからの手紙には、愛がいっぱい詰まっていて、胸が熱くなりました。



大谷貴子顧問 矢部普正先生

シンポジウムの最後には、全国協議会顧問の大谷貴子さんが、「この中で骨髄バンクでドナーになった経験のある方、ご起立願えますか」と会場に声をかけ、ご起立くださった方々に贈られた会場の暖かい拍手は、大きな感謝の気持ちの表れとなり、会場中に鳴り響きました。

「どなたでもできることは、今日の骨髄バンクの話をだれか一人でいいので話してください。この会場の200名の皆さんが実行すれば、400名の方が知ることになる」と呼び掛けました。

今後、若い世代に登録してもらうために、多くの人に興味を持っていただくような、新しい取り組みを考えていきたいと思います。

終わりに、あたたかいご支援をいただいた皆様に深く感謝いたします。

(神奈川骨髄移植を考える会

星野智子 村上忠雄)

かながわボランティア活動推進基金 21 について

神奈川県の独自制度。多様な県民ニーズに市民が主体的に社会に参画し、先駆的でモデル性が高く費用対効果に優れた事業への助成が行われています。ボランティア団体と県が、パートナーシップを組んで進められています。平成30年度からは、骨髄バンクドナー登録推進事業と造血幹細胞移植支援事業の二つの事業への活動助成が開始され、全国的にも先進的な取組として大変注目されています。

★「事業名：骨髄ドナー登録推進事業」(実施団体：神奈川県骨髄移植を考える会)が、この基金の対象事業に選定されました。上記のイベントもこの事業としての活動です。骨髄バンクドナー登録者を継続的に増加させるために、①骨髄バンクの

普及啓発活動、医療講演会、シンポジウム等の開催、②ドナー登録推進活動(献血会場でのドナー登録推進等)への助成が行われています。その成果が期待されています。

★「事業名：造血幹細胞移植総合支援プロジェクト事業」(実施団体：キャンサーネットジャパン)が、神奈川県を中心に移植医療を必要とする患

者・家族、骨髄ドナーやサポーターを支援するための情報を提供するWebサイト「START TO BE」を開設しました。タイムリーで正しい情報提供による社会の理解促進が期待されています。

賛助会員の皆さま紹介(敬称略)

【サポート会員】 小沢 憲一=東京

心からのご寄付に感謝申し上げます ●8月21日～9月20日(敬称略)

●一般	丸善商事株式会社	株式会社マルト商事
骨髄バンクチャリティ麻雀大会	現金 50,000円	現金 10,359円
2018in 東京	現金 252,802円	株式会社マルト商事
株式会社セルテック・リフレ	匿名 10,931円	現金 52,510円
現金 39円	●佐藤さち子患者支援基金	姫路中央病院 現金 5,495円
藤波 敬子 現金 10,000円	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 4,461円	お弁当ナチュラル 現金 1,408円
塩谷 圭 現金 1,000円	公益財団法人 大原記念倉敷中央医療機構 現金 5,541円	信和内科クリニック 現金 252円
匿名 現金 5,000円	●募金箱	●かざして募金
匿名 現金 566円	株式会社クスリのアオキ	現金 1,300円
●白血病患者支援基金	会津テニス協会・ゼビオ株式会社・	
	現金 560,343円	

活動資金の支援をお願いします 銀行口座 三井住友銀行 新宿通支店 郵便振替口座 00150-4-15754 普通 5666655

口座名：特定非営利活動法人 全国骨髄バンク推進連絡協議会